

(様式2)

# 平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

関市立関商工高等学校 定時制課程

学校番号 63-10

## I 自己評価

1 学校教育目標	「至誠明朗」の校訓を体し、知・徳・体の調和のとれた創造的・人間性豊かな実践力のある地域社会人の育成を図る。	
2 評価する領域・分野	◇学校経営	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	多くの生徒が小・中学校で何らかのつまづきを経験し、問題を抱えたまま入学しているが、本校での生活については生徒・保護者ともに概ね良い印象を持っている。しかし、将来の具体的な目標が持てず、高校卒業という目標だけを漫然と持って生活している生徒が大半で、学校生活に関して積極的に取り組もうとしない生徒が多いのが現状である。保護者の期待は大きいと推察されるが、具体的な指導援助には繋がっていないのが現状である。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇わかる授業、学ぶ楽しさを実感できる授業の推進を通して、基礎・基本的な学力の定着と、自ら学び自ら考える力を育成する。 ◇基本的生活習慣の育成と、豊かな人間性と社会性の伸長に努める。 ◇自己の在り方、生き方を考え、主体的に進路を選択できる能力や態度を育成する。 ◇生徒一人ひとりをよく理解し、全職員の共通理解のもとに個々に応じた支援・指導を推進する。 ◇生徒、保護者にとって魅力ある定時制の在り方の再検討を行う。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・職員会議、各種会議(部長会議、分掌会議、工業科会議等) ・職員連絡会(週3日実施) ・各種委員会(生徒指導、進路指導、研究推進等)	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1)生徒の実態に即した参加型の授業実践 (2)全職員による授業、集会時における規律指導 (3)全職員による進路指導と外部機関との連携 (4)中学校の教員向け学校見学会の実施	(1)学校評価・学校生活アンケートの集計結果 (2)欠席、遅刻、欠課時数の集計結果 (3)行事後のアンケート結果や迷惑調査の集計結果 (4)公開日等の保護者、外部講師のアンケート結果	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・生徒の実態を分析し、参加できる授業展開を工夫し、職員間で情報交換しながら改善する。 ・登下校時、授業時、集会時など様々な場面で見逃さない指導、声かけを積極的に推進する。 ・職員の情報の共有化、地域・保護者との情報交流を大切にする。 ・進路先の開拓とともに、職業観の育成を目指したキャリア教育関連事業を推進する。	①生徒が主体的に授業に参加しているか。 ②時間厳守の習慣や社会的なマナーが向上したか。 ③職員の共通理解を図り、組織が有効に機能したか。 ④生徒一人ひとりにあった進路実現ができたか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D A B <input checked="" type="checkbox"/> D A <input checked="" type="checkbox"/> C D A B <input checked="" type="checkbox"/> D
11 成果・課題	○習熟度別・少人数授業の導入、独自プリントの作成や導入の工夫により、生徒主体のわかる楽しさを実感できる授業を実践している。 ○情報共有・共通理解により、全職員による生徒支援が進みつつある。 ○就労先訪問、ハローワークや地元企業との連携、そして全職員による進路指導・支援により、多様化する生徒の進路希望を達成しつつある。 ▲全体的に落ち着いた生活ぶり、マナーは向上している。しかし、遅刻欠席の多い生徒もいて、就労と学業の両立や規範意識の醸成が課題である。 ▲中途退学者や休学者を減らす工夫をしていくことが課題である。	
12 来年度に向けての改善方策案	・ソーシャルスキル、コミュニケーションスキルを身に付ける指導の在り方を研究し実践する。 ・各行事をより生徒主体の運営ができ、全校生徒が前向きに取り組めるような工夫をしていく。 ・キャリア教育の計画的推進と外部機関等と連携したガイダンス機能の充実を図る。 ・教師については、校内外の職員研修を一層充実させてスキルアップと意識向上を目指す。	

## II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年1月23日

【意見・要望・評価等】
・夜の下校路には、街灯がなく暗いところもある。生徒の下校、特に女子生徒は心配である。安心安全のため、地域からもバックアップしていきたい。
・生徒の自己肯定感を高めるために、褒めてあげることも大切である。
・関商工には、全日制(工業科、商業科)と定時制があるので、行事等でその連携を深めていけるとよい。

(様式2)

# 平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

関市立関商工高等学校 定時制課程

学校番号 63-10

## I 自己評価

1 学校教育目標	「至誠明朗」の校訓を体し、知・徳・体の調和のとれた創造的・人間性豊かな実践力のある地域社会人の育成を図る。	
2 評価する領域・分野	◇教務部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導において、教員の取り組みに対し、保護者・生徒ともに肯定的に捉えている。</li> <li>・習熟度別授業、少人数指導、補充指導、補習など個々に応じた指導の評価は高い。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇基礎的・基本的な内容の充実と発展を図り、生徒の主体的な学習態度の育成に努め、自ら学び自ら考える力を育成する。</li> <li>◇生徒の実態に即した学習指導を工夫し、個に応じたきめ細かな指導に努め、学ぶ楽しさを実感できる授業展開に努める。</li> <li>◇指導内容の重点化と教材の精選を進めて、生徒の興味・関心を喚起し、成就感・達成感が得られる魅力ある授業づくりに努める。</li> <li>◇基礎的な国語力・計算力の向上を目的として、個々の目標及び習熟の程度に応じた指導による基礎・基本の向上と、「学び直し」を意識した義務教育段階の学習内容の確実な定着を図るように努める。</li> </ul>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議</li> <li>・週3回の職員連絡会</li> <li>・教務部会</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 確かな基礎学力の向上</li> <li>(2) 習熟度別授業、少人数授業による指導、長期休暇中の補充指導</li> <li>(3) 授業規律の確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 生徒の理解度に即した教材と指導方法の研究。</li> <li>(2) 全職員の共通理解と生徒への指導の徹底。</li> <li>(3) きめ細かな指導とコミュニケーションを図り、基礎学力の定着に努める。</li> </ul>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・普通科目による工夫したプリント学習による基礎・基本的な学力と学習意欲の向上</li> <li>・習熟度別授業、少人数指導、TTの実施による生徒の実態に即した学習指導</li> <li>・「授業中に守るべきこと」に基づく授業規律の確立</li> <li>・欠課時数過多者への段階的な指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 授業への主体的な参加ができたか。理解しやすいか。興味・関心を引き出せたか。</li> <li>② 積極的に取り組み、理解したうえで疑問を持たなかったか。</li> <li>③ 授業等の指導が成果として現れているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</li> <li>A B <input checked="" type="checkbox"/> C D</li> <li>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</li> </ul>
11 成果課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の学力に応じたきめ細かい指導を計画的に展開できた。</li> <li>○ 実習では安全教育の徹底を図り、ものづくりの心構えを学習できた。</li> <li>○ 資格取得に向けて取り組む姿勢が見られるようになった。</li> <li>○ 義務教育段階の基礎学力の定着を必要とする生徒への支援ができた。</li> <li>○ 授業内容の理解が不十分な生徒に補充を行うことができた。</li> <li>▲ 自己実現へ向けての学習意欲を引き出す工夫がさらに進める必要がある。</li> <li>▲ 社会人として求められるコミュニケーション能力を身に付けるため、より一層の工夫が必要である。</li> </ul>	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の学力に応じた基礎学力定着のための学習指導方法と教材研究に引き続き取り組む。</li> <li>・ 専門教科への興味・関心を高め、目標を決めて主体的に学習に取り組む体制をつくる。</li> <li>・ 授業への心構えを向上させ、授業前の教科書・ノートの準備を徹底する。</li> <li>・ コミュニケーション能力を身に付けるための指導をさらに工夫する。</li> </ul>	

## II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年1月23日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夜の下校路には、街灯がなく暗いところもある。生徒の下校、特に女子生徒は心配である。安心安全のため、地域からもバックアップしていきたい。</li> <li>・ 生徒の自己肯定感を高めるために、褒めてあげることも大切である。</li> <li>・ 関商工には、全日制(工業科、商業科)と定時制があるので、行事等でその連携を深めていけるとよい。</li> </ul>
--

(様式2)

# 平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

関市立関商工高等学校 定時制課程

学校番号 63-10

## I 自己評価

1 学校教育目標	「至誠明朗」の校訓を体し、知・徳・体の調和のとれた創造的・人間性豊かな実践力のある地域社会人の育成を図る。	
2 評価する領域・分野	◇生徒指導部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	「子どもに合った生徒指導」「マナーや規範意識を身に付けさせている」「いじめや差別への厳しい対応」「体罰の防止」という全ての項目で大半の生徒および保護者から肯定的なご意見をいただいている。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇基本的な生活習慣の育成を図り、授業規律の確立と生活規律の育成に努める。 ◇命の尊さや、人間としての基本的な倫理観・規範意識を体得できるように全教育活動を通して指導に努め、豊かな人間性の伸長を図る。 ◇教育相談を充実しあらゆる機会を捉えて一人一人を正しく理解し、信頼と愛情のある指導に努め、個々の生徒に応じた指導と助言を行う。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・職員連絡会での生徒情報交換 ・対応チームの編成 ・生徒指導委員会（含む要支援生徒の情報交換、対策会議）	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 基本的な生活習慣の確立	(1) 学業と仕事の両立に努力し、時と場に応じた行動をとることができる。	
(2) 交通・安全指導	(2) 自他の命の大切さを理解し、「4ない運動」を遵守し、交通マナーを守ることができる。	
(3) 教育相談の充実	(3) いじめや不登校に適切な対応をとり、生徒が安心して学校生活を送ることができる。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・ 基本的な生活習慣の確立 ○ 授業規律の確立 ○ 式、集会指導 ○ 生活全般の指導 ・ 交通、安全指導 ○ 「4ない運動」の徹底 ○ 命の大切さを学ぶ教室の実施 ・ 教育相談の充実 ○ 全職員による生徒理解 ○ テストバッテリーM2+、hyper-QU、マルチ検査・迷惑調査の実施	① 基本的な生活習慣を身に付けさせるため、全職員が共通認識のもとで生徒指導にあたることができたか。 ② 職員間での共通理解を図って、問題行動や問題の未然防止に組織的な対応をすることができたか。 ③ 生徒の変化を見逃さず、生徒のためを思った適切な生徒指導（教育相談）ができたか。	A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>  A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>  A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>
11 成果・課題	○ 生徒は落ち着いた生活態度で学校生活を送り、学習のみならず、式典や集会・外部講師による講話等にも前向きな姿勢で臨むことができた。 ○ 職員による登下校指導等を通して生徒の変化を捉えて情報を共有し、問題行動の未然防止等に努めることができた。また、職員に見守られているという生徒の安心感にもつながった。 ○ 生徒は社会人としてのマナーや社会規範、身だしなみ等についてもきちんと守って生活しようとする事ができている。今後も粘り強い指導を継続していきたい。 ▲ 家庭環境や学業等で悩みを抱える生徒への対応には、必要に応じて専門機関との連携を図る等、個々にあった方策を十分に考えて対応できるような取り組みを進めていきたい。	総合評価 A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>
12 来年度に向けての改善方策案	・ 教育相談・特別支援コーディネーターや臨床心理士等の協力・支援も受けながら、さらなる生徒理解に努める。 ・ 県の事業等も活用しながら、生徒の抱えている悩み等への解決につながるような働きかけに努める。	

## II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年1月23日

【意見・要望・評価等】
・ 夜の下校路には、街灯がなく暗いところもある。生徒の下校、特に女子生徒は心配である。安心安全のため、地域からもバックアップしていきたい。
・ 生徒の自己肯定感を高めるために、褒めてあげることも大切である。
・ 関商工には、全日制(工業科、商業科)と定時制があるので、行事等でその連携を深めていけるとよい。

(様式2)

## 平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

関市立関商工高等学校 定時制課程

学校番号 63-10

### I 自己評価

1 学校教育目標	「至誠明朗」の校訓を体し、知・徳・体の調和のとれた創造的・人間性豊かな実践力のある地域社会人の育成を図る。	
2 評価する領域・分野	◇進路渉外部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・「学校は、生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている。」の問いに保護者81%、生徒72%は概ねあてはまると回答。 ・「学校は、生徒の進路希望に沿った適切な進路指導をしている。」の問いに保護者81%、生徒72%は概ねあてはまると回答。 ・上の問に対して、生徒の回答に「わからない」が5名。保護者の回答に「わからない」が4名。「まったくあてはまらない」は生徒の回答にも保護者にも無かった。 多様化した生徒の能力や適性を把握し、適切な進路情報が必要である。 ・保護者懇談の機会などに生徒の置かれた社会的な実情を伝え、卒業後の進路実現につなげることが大切である。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇早い段階から将来の自己の在り方生き方を考えさせ職業意識を高める。 ◇教科指導やホームルーム活動等を通してキャリア教育を推進する。 ◇勤労体験を通して、勤労観・職業観を育成する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・担任を中心に全職員で取り組む。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1)職業意識のための外部講師の活用 (2)キャリア教育の推進のための進路行事 (3)勤労観・職業観の育成のための勤労学生の推進	(1)講話や進路行事後のアンケート (2)就労先の紹介と就労(アルバイト)状況 (3)就職希望者の内定率 (4)卒業までに進路決定	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・外部講師の活用 ・進路オリエンテーション、進路ガイダンス ・進路希望調査と進路相談の充実(全学年) ・就労先の開拓と就労先の訪問 ・進路実現のための面接・履歴書指導	①勤労観や職業観が身に付いたか。 ②進路情報が伝わり、進路選択に役立ったか。 ③卒業後の進路が決定できたか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D A <input checked="" type="checkbox"/> B C D A B <input checked="" type="checkbox"/> C D
11 成果・課題	総合評価 A <input checked="" type="checkbox"/> B C D	
12 来年度に向けての改善方策案	「企業が求める生徒像」に近づくためのキャリア教育の推進や、基礎学力を定着させることでスキルをたかめ、コミュニケーション能力を向上させる。	

### II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年1月23日

#### 【意見・要望・評価等】

- ・夜の下校路には、街灯がなく暗いところもある。生徒の下校、特に女子生徒は心配である。安心安全のため、地域からもバックアップしていきたい。
- ・生徒の自己肯定感を高めるために、褒めてあげることも大切である。
- ・関商工には、全日制(工業科、商業科)と定時制があるので、行事等でその連携を深めていけるとよい。

(様式2)

# 平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

関市立関商工高等学校 定時制課程

学校番号 63-10

## I 自己評価

1 学校教育目標	「至誠明朗」の校訓を体し、知・徳・体の調和のとれた創造的・人間性豊かな実践力のある地域社会人の育成を図る。	
2 評価する領域・分野	◇保健厚生部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	健康管理・安全指導の項目については、約100%の保護者、約80%の生徒から「よく当てはまる」、「やや当てはまる」の評価をいただいた。非常変災時の対応についての周知が約96%の保護者、約80%の生徒から「よく当てはまる」、「やや当てはまる」の評価をいただいた。昨年度より、保護者は防災意識が向上し生徒は低下している。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇運動に親しみ、進んで健康に関する情報を取得し、健康で安全な生活を送る態度を育てる。 ◇自ら環境整備に取り組み、快適な学習環境を整える態度を育む。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールカウンセリング</li> <li>・教育相談及び懇談（三者懇談年2回、二者懇談年1回）</li> <li>・職員連絡会（週3回）による生徒情報交換会</li> <li>・生徒保健委員会</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 「ほけんだより」の発行 (2) 各クラスの保健委員による日常点検 (3) 一斉掃除の実施 (4) 「命を守る訓練」、「救急法講習会」の充実	(1) 「ほけんだより」の発行および健康相談の実施 (2) 点検表による現状把握と改善 (3) 年2回の大掃除の実施 (4) 事後アンケート等による結果分析	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内および校外における事故防止</li> <li>・使用教室および使用設備掃除の徹底</li> <li>・「ほけんだより」の毎月発行</li> <li>・「命を守る訓練」年4回、「救急法講習会」の実施</li> </ul>	①生徒及び職員の生命・安全・健康を守ることができたか。 ②学習環境の整備ができたか。 ③生徒に分かりやすく、親しまれる「ほけんだより」が発行できたか。 ④効果的な「命を守る訓練」、「救急法講習会」が実施できたか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D A <input checked="" type="checkbox"/> B C D A <input checked="" type="checkbox"/> B C D A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
11 成果・課題	○学校管理下の事故が5件（うち医療機関受診0件）あったが、大事に至るものはなく、概ね事故防止に対する注意喚起と自己の健康管理ができた。 ○各クラスの保健委員による教室の日常点検は、ほぼ徹底することができた。 ○毎月の保健だよりの配布により、健康に関する関心を喚起することができた。 ○さまざまな場面設定を想定した訓練や講話を実施することにより、生徒一人ひとりの防災意識向上と安全に対する取り組みの充実を図ることができた。 ▲各種検診での再受診対象者の受診率が低い。歯科については、年々受診率が下がってきている。	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各検診における要受診対象者の個別指導の充実と意識改革、保護者の協力と理解を得る。</li> </ul>	

## II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年1月23日

<b>【意見・要望・評価等】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜の下校路には、街灯がなく暗いところもある。生徒の下校、特に女子生徒は心配である。安心安全のため、地域からもバックアップしていきたい。</li> <li>・生徒の自己肯定感を高めるために、褒めてあげることも大切である。</li> <li>・関商工には、全日制(工業科、商業科)と定時制があるので、行事等でその連携を深めていけるとよい。</li> </ul>
---

(様式2)

## 平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

関市立関商工高等学校 定時制課程 学校番号 63-10

### I 自己評価

1 学校教育目標	「至誠明朗」の校訓を体し、知・徳・体の調和のとれた創造的・人間性豊かな実践力のある地域社会人の育成を図る。		
2 評価する領域・分野	◇ 機械科		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	もの作りに興味があって入学してくる生徒は、ほとんどいない。保護者も機械の技術や技能を身に付けさせたいという気持ちよりも、4年間で高校を卒業させたいという思いが強い。専門性の高い工業教育よりも安全教育・基礎基本を重んじた生徒の育成を図る指導を実践し、保護者の期待に応えたい。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇教科指導の充実 ◇基本的な生活習慣の定着を図る生徒指導 ◇一人一人の生徒をよく観察し、全職員で共通理解を図り協働して生徒の育成にあたる。 ◇家庭や雇用主との連携を強め、生徒への応援態勢を確立する。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・職員会議、機械科会議、工業科研究会、週3回の職員連絡会		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 工業人としての望ましい態度や習慣の育成 (2) 事故防止と安全・衛生教育、安全管理態勢の確立 (3) 職業指導の推進	(1) 授業規律の励行と欠席欠課時数の減少 (2) 挨拶ができ学習環境の保持ができる (3) 家庭や職場における生徒の様子が把握できる。		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
・あらゆる機会を捉えて生徒一人一人を正しく深く理解し、信頼と愛情のある指導に努め、個々の生徒に応じた指導と助言を行う。 ・学習環境の整備と清掃と安全に行動できるための安全管理・安全教育(5S等)の徹底 ・勤労観・職業観の育成(勤労学生の推進)と各種資格検定への積極的な取り組みと指導体制の確立。	①職員が組織的に取り組み、互いの理解や協力が得られたか。 ②挨拶など生徒の基本的な生活習慣が向上したか。 ③授業規律が保たれ、生徒の積極的な授業参加が見られたか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D A <input checked="" type="checkbox"/> B C D A <input checked="" type="checkbox"/> B C D	
11 成果・課題	○資格部を立ち上げ意欲的に取り組むことができた。また、クラス全体や課題研究で生徒の希望する検定にチャレンジすることにより学習意欲の向上に努めることができた。情報技術検定、基礎製図検定、CAD検定に取り組んだ。 ▲ものづくりに興味を持たせるため工業基礎にレゴを2セット購入したが、1パート4名の実習なので新年度に2セット追加して取り組みやすくする。 ▲資格部を立ち上げたが、活動が不十分である。意欲が希薄な生徒が多い中で目標をもたせ結果を出すことで意欲を高めていきたい。		総合評価 A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
12 来年度に向けての改善方策案	・資格取得に力を入れることから、資格部を立ち上げたが、充実させるために学年ごとの取り組みを計画的に進めていく。 ・来年度、課題研究が3年次に1単位増えたことから資格検定の時間に充て生徒のレベルにあった指導をして成果を上げる。 ・学業とともに就労を奨励し、同時に校外での活動に積極的に参加して、工業への関心を高めていく。		

### II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年1月23日

<b>【意見・要望・評価等】</b> ・夜の下校路には、街灯がなく暗いところもある。生徒の下校、特に女子生徒は心配である。安心安全のため、地域からもバックアップしていきたい。 ・生徒の自己肯定感を高めるために、褒めてあげることも大切である。 ・関商工には、全日制(工業科、商業科)と定時制があるので、行事等でその連携を深めていけるとよい。
--